

### 1. タイトルページ

ゴシック 11pt

タイトルページは2つの部分で構成されます。

(a) タイトル部分 (題目, 著者, 所属) : 横1段組

(b) 本文部分 : 横2段組

このほか、フッタ (ページ番号) が付きます。なおソフトウェアによっては、タイトル部分とその下の本文部分が別のファイルに分かれていることがあります。

明朝 10pt

#### (1) タイトル部分のレイアウトとフォント

タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ1cmずつ大きくとって下さい。すなわち、A4用紙の幅に対して左右それぞれ3cmずつのマージンをとります。

タイトルはシンポジウムの名称の下に約1cmのマージンを取り、センタリングします。以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

タイトル : ゴシック体 16 pt フォント

(約1cmのスペース)

著者名 : 明朝体 12 pt フォント

(約5 mm のスペース)

著者所属 : 明朝体 9 pt フォント

(約1cmのスペース)

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べて下さい。

#### (2) 本文部分のレイアウトとフォント

本文と著者所属の間に約1cmのスペースを空けてください。

本文は2段組で、左右のマージンは2cmずつ、段と段との間のスペースは約6mmとします。下辺のマージンは24mmです。

本文には明朝体10ptフォントを用いて下さい。

1行25文字前後

6 mm

#### (3) フッタ

すべてのページの下辺中央にフッタ機能を使ってページが入ります。ページ番号は暫定的に論文表紙を第1ページとしてつけてください。

右マージン 20 mm

下辺マージン 24 mm

## 2. 一般ページ

ゴシック 11pt

第2ページ以降の通常のページは上辺のマージンを19mmとします。それ以外はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

### (1) 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

1行以上

## 3. 見出し（見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

1行

### (1) 見出しのレベル

見出しのレベルは3段階までとします。第1レベルの見出し（章）はゴシック体とし、2. などの数字に続けて書きます。また、見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように、上を1行以上、下を1行程度空けて下さい。

1行

### (2) 第2レベルの見出し

第2レベルの見出し（節）もゴシック体で、(4) などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

#### a) 第3レベルの見出し

ゴシック 10pt

第3レベルの見出し（項）は、括弧付きアルファベットを付け、上下には特にスペースを空けません。第3レベルより下位の見出しは用いないで下さい。

## 4. 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式 (1a)

$$\text{中央に} \rightarrow G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z dz \quad (1b)$$

のように本文と独立している場合でも、 $C_D, \alpha(z)$

のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品

明朝 9pt

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ $h$ (m)	幅 $w$ (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

ゴシック 9pt

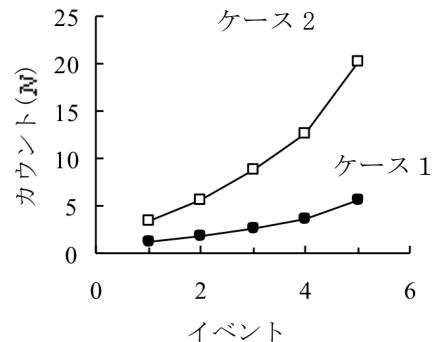


図-2 図のキャプションは図の下に置く

1ないし2行

質が悪いと版下原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし、式番号は括弧書きで右詰めにします。

## 5. 図表

### (1) 図表の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また、図表はそれぞれのページの上部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は、「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1や図-2のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には1~2行程度の空白を空けて区別を明確にします。

### (2) 図表中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意して下さい。特にキャプションの大きさ (9pt) より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表-1のようにインデントして折り返します。英文キャプションの場合は、見出

しをTable1やFig. 2としてください.

## 6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り，その引用箇所  
このように<sup>1)</sup>上付き右括弧付き数字で指示します。  
参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリスト  
として示し，脚注にはしないでください。

7. 謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。  
見出しとコロンをゴチック体で書き，その直後から  
文章を書き出して下さい。

## 付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の  
間に置くこと。

ゴチック 10pt

### 参考文献

- 1) Hill, R.: A self-consistent mechanics of composite materials, *J. Mech. Phys. Solids*, Vol.13, pp. 213-222, 1965.
- 2) Blevins, R.D.: *Flow-Induced Vibration*, 2nd ed., Van Nostrand Reinhold, New York, 1990.
- 3) Karniadakis, G.E, Orszag S.A. and Yakhot, V.: Renormalization group theory simulation of transitional and turbulent flow over a backward-facing step, *Large Eddy Simulation of Complex Engineering and Geophysical Flows*, Galperin, B. and Orszag, S.A. eds., Cambridge University Press, Cambridge, pp. 159-177, 1993.
- 4) ファン, Y.C.: 固体の力学/理論, 大橋義夫, 村上澄男共訳, 培風館, 1970.
- 5) 土田建次, 木村 一: 版下原稿スタイルフォーマットの作成について, 土木学会論文集, No.333/II-99, pp. 20-33, 1994.

9pt